別表1-3 歯科衛生士科（新）

分野	教育内容	基準単位	単位数	年間授業時数			年間授業時間数	形態		
				1年	2年	3年				
基礎分野	科学的思考の基盤	10	生物学	2	30		30	講義		
			化学(環境学概論含む)	2	30		30	講義		
	人間と生活		道徳論	1	16		16	講義		
			教育原理	2		30	30	講義		
			社会福祉概論	1		16	16	講義		
			情報処理	2	60		60	実習		
			外国語	2	32		32	講義		
専門基礎分野	人体(歯・口腔を除く。)の構造と機能	解剖学	2	30		30	講義			
		生理学	2	30		30	講義			
		生化学	1	16		16	講義			
	歯・口腔の構造と機能	口腔解剖学	2	30		30	講義			
		歯牙解剖学(実習)	1	40		40	実習			
		組織・発生学	2	32		32	講義			
	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	病理学・口腔病理学	2	30		30	講義			
		薬理学・口腔薬理学	2		30	30	講義			
		微生物学・口腔微生物学	2	32		32	講義			
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会のしくみ	口腔衛生学(歯科衛生統計を含む)	4	46		16	62	講義		
		衛生学・公衆衛生学	2		30	30	講義			
		衛生行政・社会福祉	2		30	30	講義			
	専門分野	歯科衛生士概論	2	歯科衛生士概論	1	16		16	講義	
				歯科医療倫理学	1	16		16	講義	
臨床歯科医学		8	歯科臨床概論	2	32		32	講義		
			歯周治療学	2		32	32	講義		
			歯科補綴学	1		16	16	講義		
			歯科麻酔学	1		16	16	講義		
			小児歯科学	1		16	16	講義		
			歯科保存修復学	2		30	30	講義		
			歯内療法学	2		30	30	講義		
			高齢者・障害者歯科(摂食・嚥下を含む)	3		32	16	48	講義	
歯科予防処置論		8	口腔保健管理	2	30		30	講義・演習		
			歯科予防処置法・齲蝕予防処置法	8	60	90	90	240	実習・演習	
			歯科保健指導論	7	栄養指導学	2	30		30	講義
					歯科保健指導法	8	60	90	90	240
歯科診療補助論		9	歯科放射線学	2	16	16	32	講義		
			歯科材料学	1	16		16	講義		
			看護学総論	1			16	16	講義	
			救急蘇生法	1			30	30	講義・演習	
			歯科診療補助法	7	60	90	60	210	実習	
臨地実習・臨床実習		20	20	21	45	450	450	945	実習	
選択必修分野	その他	7	接遇作法・受付事務	1		16	16	講義		
			医療保険事務	2			30	30	講義	
			総合学習Ⅰ・Ⅱ	2			60	60	講義・演習・実習	
			卒業研究	1			30	30	講義・演習	
			陶芸	1		30		30	実習	
			健康と体づくり	1	40			40	実習	
			介護技術	5	174			174	講義・演習・実習	
合計(時間数)	93		122	1,049	1,152	888	3,089			

基礎分野

生物学

化学

道德論

情報処理

外国語

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
生物学	I 学年	前期	講義	2	15
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
後藤 重孝	水曜日・I 講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<一般目標> 解剖学、生理学、組織発生学などを理解するための生物学的な基礎知識を習得する。 <到達目標> 細胞の構造と機能、物質代謝とエネルギー代謝、ホメオスタシス、生殖と発生と分化、遺伝、進化などについて理解する。					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
基本的な事項について教科書、図録を参考にしながら歯科衛生士に必要と思われる関連事項までに高める授業を行う。					
3. 教科書					
最新歯科衛生士教本「生物学」医歯薬出版株式会社					
4. 参考図書・資料					
5. 授業心得					
・理由のない遅刻、途中退出の禁止 ・授業中の私語、携帯電話動作、授業に無関係な質問、居眠りの禁止					
6. 評価の方法					
・定期考査、レポート					
7. その他					

回	修復主題	修復内容
1	生命の誕生と生命の変遷	生命体をつくる物質の起源と生命が進化した道筋
2	細胞の構造とはたらき	細胞の構造
3	細胞のさまざまな活動	ATP、細胞呼吸、動物運動、分泌、情報伝達
4	細胞の一生と個体の成り立ち	細胞分裂、染色体の数と複製、単細胞と多細胞
5	ヒトの組織と器官とはたらき	ヒトの組織の種類、消化循環呼吸泌尿器官
6	生殖によって子孫をつくる	生殖の方法、減数分裂、配偶子の形成
7	遺伝子とその法則	メンデルの法則、ABO式血液型、伴性致死遺伝、遺伝子の変異
8	遺伝子の仕組みとはたらき	DNAの構造、遺伝情報の仕組み
9	発生の過程と仕組み	発生の過程、発生を進める仕組み
10	刺激の受容とヒトの感覚器官	視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚、平衡感覚
11	神経系による刺激の伝達	ニューロンの刺激伝達、シナプスの伝達
12	中枢神経と末梢神経	脳、脊髄、末梢神経、反射弓
13	体液とホルモンのはたらき	ホメオスタシス、血液、リンパ、組織液、ホルモン
14	自律神経とホルモンの協調作用	血糖値、体温、血液凝固、免疫、アレルギー
15	動物の行動及びヒトの進化と未来	本能行動、生得的行動、ヒトの進化、生態系、環境汚染

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
化学	1 学年	後期	講義	2	15
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のaccees	
後藤 重孝	水曜日・1 講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<一般目標> 生化学、栄養学、薬理学、理工学、歯科放射線学などの学問を理解するための科学的な基礎知識を習得する。 <到達目標> 物質の構造と変化、熱力学、無機化学、有機化学、高分子化学の基本について理解する。					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
講義を主体的に科学の基礎的、基本的な事項の理解を深める。 演習問題を授業の中で取り扱い理解を深める。					
3. 教科書					
最新歯科衛生士教本「化学」 医歯薬出版株式会社					
4. 参考図書・資料					
5. 授業心得					
・理由のない遅刻、途中退出の禁止 ・授業中の私語、携帯電話動作、授業に無関係な質問、居眠りの禁止					
6. 評価の方法					
・定期考査、レポート					
7. その他					

回	修復主題	修復内容
1	物質の分類と構造	・原子の構造・原子番号と質量数・同位体・分子
2	原子の電子配置と周期律	・電子殻とエネルギー・原子の電子配置・価電子・イオン・周期律
3	物質質量	・原子量・分子量・式量・モル
4	化学結合	・電子式・イオン結合・共有結合・配位結合・金属結合・分子間結合
5	気体について知ろう	・気体に関する法則・大気の組成・温室効果・大気汚染・酸素とオゾンの利用
6	水溶液の濃度・希薄水溶液・コロイド	・濃度の表し方・希薄水溶液の性質・コロイド溶液
7	酸とアルカリの水溶液	・酸・アルカリ・中和反応
8	酸化還元と金属のイオン化傾向	・酸化・還元・酸化数・酸化還元反応・金属イオン化傾向
9	化学反応と化学平衡	・化学反応式の表し方・活性化エネルギー・化学反応の速さ・化学平衡
10	有機化合物の成り立ちと種類	・官能基・置換基・電子配置・構造式・炭水化物
11	有機化合物の構造と反応	・構造異性体・立体異性体・反応機構のちがい
12	代表的な化合物と性質	・飽和・不飽和炭化水素：ハロゲン・水酸基・酸素・窒素・硫黄を含む化合物
13	高分子化合物	・モノマーからポリマー・合成ゴム
14	水の構造と性質とヒトをつくる元素	・水の密度・比熱・沸点融点・溶媒特性・ヒトをつくる元素
15	糖質・タンパク質・脂質・核酸とDNA	・糖質・アミノ酸とタンパク質・脂質・核酸とDNA

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
道徳論	1 学年	後期	講義	1	8
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のaccees	
本堂 敦	金曜日・1 講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<一般目標> 道徳の知識を学び、理解し人間形成を習得する。 <到達目標> ①道徳の概念、歴史、指導要領、家庭教育など、道徳教育に関連する話題を言及し、それらについて理解し、道徳性を身に付けさせること。 ②道徳的に自律した人間として自ら道徳観を作り出すことができる。					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
基本的に講義を中心とするが、時にはテーマを挙げ、ディスカッションすることもある。					
3. 教科書					
無し					
4. 参考図書・資料					
5. 授業心得					
基本的に理由のない遅刻・途中退出は認めません。また、授業の進行に差し障りのある私語・スマートフォンのスイッチONや居眠りなどの行為は認めません。					
6. 評価の方法					
・定期試験 100%					
7. その他					

回	修復主題	修復内容
1	はじめに	
2	道徳とは 善、悪	
3	道徳と法 罪、罰	
4	道徳的社会規範 正義、誠実、信頼、平等、責任	
5	日本の道徳規範	
6	文学の中の道徳 ドストエフスキー 罪と罰	
7	人命尊重	
8	天才とは努力する才能である	

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
情報処理	I 学年	通年	講義・演習	2	30
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のaccess	
藤澤 章	前期:月曜1・2講目 後期:月曜1・2講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<一般目標> ・歯科衛生士のみならず一般的な社会人に必要な、コンピュータ操作能力を身に付け、卒業後の就職、在学中の論文提出や情報収集ツールとして活用できる能力を習得する。 <到達目標> ① コンピュータの基本操作及び表計算(Excel)にて集計、データベース、を活用したデータ処理ができる。 ② Google フォームを活用したアンケートを行い、スプレッドシートにて集計するデータ処理ができる ③ プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の基本的な操作ができる。					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
I. コンピュータ機能概要、実用例説明(教員) II. 機能操作説明(教員) III. 機能実践(学生) IV. 複合的な機能を使用した課題提出(学生)					
3. 教科書					
世界一わかりやすい Excel テキスト 2016/2013/2010 対応版 副教材:よくわかる Microsoft Excel 2019 基礎、応用					
4. 参考図書・資料					
はじめての Google アプリ徹底入門の教科書 2020					
5. 授業心得					
・学生の受講開始習熟度に差異があることが予想される為、基本的な操作説明より開始する。 ・学生の習熟度確認の為、実践中に関しては教員が進捗を確認する。 ・課題に関しては、学生個々が異なった課題を提出する内容にする。					
6. 評価の方法					
定期試験(評価次に90分程度)100%					
7. その他					
・課題提出、定期試験提出等で USB メモリ(512MB 以上)が必要					

回	修復主題	修復内容
1	情報処理概論Ⅰ	コンピュータの基礎知識(座学)
2	情報処理概論Ⅱ	//
3	OSの基礎知識Ⅰ	Windowsの基本操作
4	OSの基礎知識Ⅱ	//
5	キータッチ	ホームポジションを踏まえたキータッチの練習
6	単語・記号・文章入力	IMEを利用した文字、文書の入力(単文節かな漢字変換)
7	表計算Ⅰ	Excelの概要、基本操作
8	表計算Ⅱ	EXCELを利用した表作成①
9	表計算Ⅲ	EXCELを利用した表作成②
10	表計算Ⅳ	書式の適用
11	表計算Ⅴ	数式と関数の使用①
12	表計算Ⅵ	数式と関数の使用②
13	表計算Ⅶ	グラフ機能①
14	表計算Ⅷ	グラフ機能②
15	表計算Ⅸ	データベース機能①
16	表計算Ⅹ	データベース機能②
17	表計算Ⅺ	その他の関数①
18	表計算Ⅺ	その他の関数②
19	GoogleフォームⅠ	Googleフォーム等Googleアプリの概要
20	GoogleフォームⅡ	Googleフォームを使用したアンケート作成①
21	GoogleフォームⅢ	Googleフォームを使用したアンケート作成②
22	スプレッドシートⅠ	スプレッドシートの基本操作
23	スプレッドシートⅡ	アンケート結果の集計したデータ作成①
24	スプレッドシートⅢ	アンケート結果の集計したデータ作成②
25	スプレッドシートⅣ	アンケート結果の集計したデータ作成③
26	パワーポイントⅠ	パワーポイントの基本操作
27	パワーポイントⅡ	プレゼンテーションについて
28	パワーポイントⅢ	プレゼンテーションの資料作成
29	パワーポイントⅣ	プレゼンテーションのスライド作成
30	パワーポイントⅤ	スライドを使ってプレゼンテーション(発表)

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
金道詠	1 学年	通年	講義	2	16
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
KDS 韓国語スクール	金曜日・3講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<一般目標> 一般的な韓国語を身につけるとともに実用的な韓国語を習得する。 <到達目標> ①韓国語による簡単なコミュニケーションが取れる。 ②韓国で使われる言葉を韓国で話せる。 ③韓国文化を分るようになる。 ④日本と韓国との似ているところ、違うところがある。					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
- 教科書に準じて授業を進めるが、他の動画やプリントも参考にして、広範囲で出きるだけ身近な韓国語を習得させる。 - 授業は韓国語でコミュニケーションできるように、積極的な授業参加を望みます。					
3. 教科書					
美しい韓国語：美しい韓国語学校					
4. 参考図書・資料					
美しい韓国語					
5. 授業心得					
- 声に出して韓国語を発音し、できるだけ沢山ロールプレイをして実践練習をする。 - 韓国語で簡単なコミュニケーションが取れる。					
6. 評価の方法					
定期試験 100%					
7. その他					

回	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション	韓国について
2	韓国の文字	ハングル誕生について
3	ハングルについて	ハングル1 (韓国語の構成)
4	ハングルについて	ハングル2 (子音、母音)
5	ハングルについて	ハングル3 (二重母音)
6	ハングルについて	ハングル4 (激音、濃音)
7	ハングルについて	ハングル5 (パッチム)
8	挨拶	はじめまして、自己紹介
9	指示代名詞	これは何ですか
10	です、ます	です、ますの活用
11	韓国文化	韓国の文化について
12	疑問形	週末になにをされますか
13	数字	数字、電話番号、お金の数え方
14	命令形	～してください、～しないでください
15	旅行の韓国語	旅行で使う韓国語
16	動画で習う韓国語	動画で習う日常会話

專門基礎分野

解剖学

生理学

生化学

口腔解剖学

歯牙解剖学

組織・発生学

病理学・口腔病理学

微生物学・口腔微生物学

口腔衛生学

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
解剖学	1 学年	前期	講義	2	15
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
山本 淳子	水曜日・2講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<一般目標> 人体の構造と機能、また組織・発生についての概要を理解する。 <到達目標> ①骨の機能と構造について説明できる。 ②生体を構成する主な筋の構造・機能について説明できる。 ③食物の消化・吸収について理解し、メカニズムを説明できる。 ④血液や心臓、リンパ系に関する仕組みを理解し、説明できる。 ⑤感覚器について概説できる。 ⑥神経系について特徴、仕組みを説明できる。 ⑦泌尿器系について概説できる。 ⑧内分泌器の基本構造と仕組み、ホルモンについて説明できる。 ⑨生殖器について説明できる。					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
・教科書に遵守する。 ・教科書の他にプリント等を使用し理解を助ける。					
3. 教科書					
歯科衛生学シリーズ「人体と構造と機能」解剖学・組織発生学・生理学」 歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 (一社)全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社					
4. 参考図書・資料					
なし					
5. 授業心得					
・必ず教科書を忘れずに持参してください。 ・シバラスに沿って予め該当履修内容を学習しておくこと。 ・授業中の私語、居眠りは厳禁。 ・提出物は必ず期日に提出すること。					
6. 評価の方法					
・ 定期試験 100%					
7. その他					

回	修復主題	修復内容
1	序章 解剖学・組織発生学・生理学で学ぶことⅡ編構造と機能Ⅰ章骨格系	①人体の構造と機能を学ぶにあたって ①概説 ②骨の発生
2	Ⅱ編 構造と機能Ⅰ章骨格系	③頭蓋骨 ④体幹骨 ⑤上肢骨 ⑥下肢骨
3	Ⅱ編 2章 筋と運動	①概説 ②体の各部位の骨格筋 ③運動 ④筋電図
4	Ⅱ編 3章 消化・吸収	②体の各部位の骨格筋 ③運動
5	Ⅱ編 3章 消化・吸収	①消化と吸収の概要 ②消化器の構造③口腔での消化
6	Ⅱ編 3章 消化・吸収	④胃の機能 ⑤小腸の機能 ⑥大腸の機能
7	Ⅱ編 4章 循環	①脈管系の概要 ②血管の構造 ③血管の機能 ④血液 ⑤心臓
8	Ⅱ編 4章 循環	⑤心臓 ⑥循環の生理 ⑦動脈系 ⑧静脈系
9	Ⅱ編 4章 循環	⑧静脈系 ⑨胎児の循環系 ⑩リンパ系 ⑤脳の血管 ⑥末梢神経系 ⑦神経系の主な伝導路
10	Ⅱ編 6章 神経系	①神経系の概要 ②神経系の基本構造
11	Ⅱ編 6章 神経系	③中枢神経系 ④脳脊髄膜
12	Ⅱ編 7章 呼吸 Ⅰ編 歯・口腔の構造 Ⅰ章 口腔とその周囲の解剖学	①呼吸器系の構成 ②胸郭の構造と換気の仕組み ③肺気量と換気量 ④肺胞および組織におけるガス交換 ⑤血液中のO ₂ とCO ₂ の運搬 ⑥呼吸の調節 ⑧咽頭と喉頭の構造
13	Ⅱ編 5章 感覚	①感覚の性質と種類 ②体性感覚の特徴 ③外皮 ④特殊感覚器の構造と機能
14	Ⅱ編 8章 腎機能と排尿 Ⅱ編 9章 内分泌	①腎臓の働き ②泌尿器の構造 ③尿の生成 ④尿の一般的性質 ①内分泌器官とホルモン②内分泌器官の構造と機能③その他のホルモン
15	Ⅱ編 9章 内分泌 Ⅱ編 10章 生殖	③その他のホルモン ④歯とホルモン ①生殖器 ②性周期 ③受精と妊娠 ④分娩と乳汁分泌

回	修復主題	修復内容
1	序章 解剖学・組織発生学・ 生理学で学ぶこと Ⅱ編 構造と機能 2章筋と運動	・生理学とは・概説(筋と構造と機能)・運動・筋電図
2	Ⅱ編 構造と機能 3章 消化・吸収	・消化と吸収の意義・口腔での消化・胃の機能・小腸の機能 ・大腸の機能
3	Ⅱ編 構造と機能 4章 循環	・脈管系の概要・体循環、肺循環・血管の機能・血液(血液の成分・血液の機能・血液の凝固と溶解など)
4	Ⅱ編 構造と機能 4章 循環	・心臓(心臓の拍動のコントロール)
5	Ⅱ編 構造と機能 6章 神経系	・神経系の概要・神経系の構成・神経系の基本的機能
6	Ⅱ編 構造と機能 6章 神経系	・中枢神経系・末梢神経系
7	Ⅱ編 構造と機能 7章 呼吸	・呼吸・呼吸器の構成・排気量と換気量・肺胞および組織におけるガス交換・血液中のO ₂ とCO ₂ の運搬・呼吸の調節
8	Ⅱ編 構造と機能 5章 感覚	・感覚の基本的性質・体性・内蔵感覚・外皮・特殊感覚器の構造と機能
9	Ⅱ編 構造と機能 8章 腎機能と排泄	・腎臓の働き・泌尿器の構造・尿の生成・一般的性質 ・排尿の仕組み
10	Ⅱ編 構造と機能 9章 内分泌 11章 体温	・体熱の産生・体熱の放散・体温の調節・体温の変動 ・内分泌器官とホルモン・内分泌器官の構造・その他のホルモン・歯とホルモン
11	Ⅲ編 歯・口腔の機能 1章 歯・口腔、顔面の感覚 2章 味覚と嗅覚	・口腔顔面領域の神経生理学・口腔顔面痛・口腔顔面領域の触圧覚・味覚について・嗅覚について
12	Ⅲ編 歯・口腔の機能 3章 咬合と咀嚼・吸啜	・下顎位・下顎の運動(下顎運動の特徴・下顎限界運動 ・咀嚼筋と下顎位・咀嚼筋の特性など)
13	Ⅲ編 歯・口腔の機能 3章 咬合と咀嚼・吸啜	・顎反射・摂食行動・咀嚼能力・吸啜
14	Ⅲ編 歯・口腔の機能 4章 嚥下と嘔吐	・嚥下と嘔吐にかかわる構造(咽頭の構造・高膈の構造・食道の構造・嚥下に関与する筋群) ・嚥下(摂食・嚥下の流れ・嚥下の概要・嚥下時の食塊の動きなど)・嘔吐
15	Ⅲ編 歯・口腔の機能 5章 発声・発語 6章 唾液	・発声機構の概要・声の生成・言語音の形成など・唾液腺 ・唾液の分泌機構・唾液の性状・成分と機能・唾液と疾患

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
生化学	1 学年	後期	講義	1	8
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のaccees	
玉川 博文	金曜日・3講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<一般目標> 生命現象を分子レベルの化学反応として理解し、生命体の活動に必要な栄養素の摂取と働きから、健康の維持と増進を考える態度を養う。 <到達目標> ①エネルギー代謝の全体像を説明できる。 ②主要なエネルギー基質である糖質・脂質の代謝を説明できる。 ③栄養素の消化・吸収を理解できる。 ④アミノ酸の代謝分解過程を説明できる。 ⑤結合組織を構成する細胞を説明できる。 ⑥石灰化の仕組みを説明できる。 ⑦唾液中の無機質と有機質の種類を列挙でき、作用を理解できる。 ⑧う蝕・歯周疾患におけるプラークの関わりを説明できる。					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
講義を主体として進める。 必要に応じて小試験、レポートを課す。					
3. 教科書					
歯科衛生学シリーズ:「 栄養と代謝 」 医歯薬出版株式会社					
4. 参考図書・資料					
なし					
5. 授業心得					
・ 理由のない遅刻・途中退席は認めない。 ・ 授業中の私語・居眠りは厳禁。 ・ 携帯電話はスイッチを切ること。					
6. 評価の方法					
・ 定期試験 100%					
7. その他					

令和7年度（第16期生） 年間授業計画 科目：生化学

回	修復主題	修復内容
1	生体の構成要素	生体の構成要素とは
2	生体における化学反応	消化・吸収とエネルギー代謝について
3	糖質の代謝・脂質の代謝	解糖・TCAサイクルと電子伝達系、エネルギーの生成
4	たんぱく質の代謝	アミノ酸の分解とたんぱく質の生合成について
5	結合組織・歯の構成成分	コラーゲンとヒドロキシアパタイトについて
6	石灰化・唾液	石灰化の仕組み
7	歯の堆積物・免疫	ペリクル・プラーク・歯石、免疫について
8	まとめ	

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
口腔解剖学	1 学年	後期	講義	2	15
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のaccees	
山本 淳子	木曜日・2講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<一般目標> 口腔とその周囲組織の構造と機能について理解する。 <到達目標> ①顔面ならびに口腔の範囲を説明できる。 ②顔面ならびに口腔の各部位の名称を正確に表現できる。 ③顔面ならびに口腔を構成する骨を概説できる。 ④頭頸部の筋の構成と機能について概説できる。 ⑤頭頸部の脈管系・神経について概説できる。 ⑥三叉神経と顔面神経の走行と線維構成を概説できる。 ⑦顎関節の構造と機能を概説できる。 ⑧下顎の運動について概説できる。					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
・教科書に遵守する。 ・教科書の他にプリント等を使用し理解を助ける。					
3. 教科書					
歯科衛生学シリーズ「人体と構造と機能Ⅰ 解剖学・組織発生学・生理学」 歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 (一社)全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社					
4. 参考図書・資料					
なし					
5. 授業心得					
・必ず教科書を忘れずに持参してください。 ・シバラスに沿って予め該当履修内容を学習しておくこと。 ・授業中の私語、居眠りは厳禁。 ・提出物は必ず期日に提出すること。					
6. 評価の方法					
・定期試験 100%					
7. その他					

回	修復主題	修復内容
1	I 編 歯・口腔の構造 I 章 口腔とその周囲の解剖学	①口腔とは 1.口腔とその周囲の表面 2.口腔前庭
2	I 編 歯・口腔の構造 I 章 口腔とその周囲の解剖学	①口腔とは 3.固有口腔 ⑦唾液腺
3	I 編 歯・口腔の構造 I 章 口腔とその周囲の解剖学	②口腔を構成する骨 1.頭蓋を構成する骨
4	I 編 歯・口腔の構造 I 章 口腔とその周囲の解剖学	②口腔を構成する骨 1. 頭蓋を構成する骨 2.口腔を構成する骨
5	I 編 歯・口腔の構造 I 章 口腔とその周囲の解剖学	②口腔を構成する骨 2.口腔を構成する骨
6	I 編 歯・口腔の構造 I 章 口腔とその周囲の解剖学	③頭頸部の筋と作用 1.顔面筋(表情筋) 2.咀嚼筋
7	I 編 歯・口腔の構造 I 章 口腔とその周囲の解剖学	③頭頸部の筋と作用 2.咀嚼筋 3.舌筋 4.頸部の筋 5.顎下三角とオトガイ下三角 6.翼突下顎隙と翼突下顎縫線
8	I 編 歯・口腔の構造 I 章 口腔とその周囲の解剖学	④顎関節
9	I 編 歯・口腔の構造 I 章 口腔とその周囲の解剖学	⑤口腔周囲の脈管 1.動脈系
10	I 編 歯・口腔の構造 I 章 口腔とその周囲の解剖学	⑤口腔周囲の脈管 1.動脈系 2.静脈系
11	I 編 歯・口腔の構造 I 章 口腔とその周囲の解剖学	⑤口腔周囲の脈管 2.静脈系 3.リンパ系
12	I 編 歯・口腔の構造 I 章 口腔とその周囲の解剖学	⑥神経 1.三叉神経 2.顔面神経
13	I 編 歯・口腔の構造 I 章 口腔とその周囲の解剖学	⑥神経 2.顔面神経 3.舌咽神経
14	I 編 歯・口腔の構造 I 章 口腔とその周囲の解剖学	⑥神経 3.舌咽神経 4.迷走神経 5.舌下神経
15	I 編 歯・口腔の構造 I 章 口腔とその周囲の解剖学	⑥神経 6.頭頸部に分布する脊髄神経 7.頭部の自律神経

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
歯牙解剖学	1 学年	通年	講義・実習	1	20
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
佐藤 大一	火曜日 ・4 講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<一般目標> ・乳歯・永久歯の形態を習得し、歯列弓を中心とした口腔機能の働きについて学ぶ。 ・歯牙形態の特徴を理解する。 <到達目標> ・各歯牙形態をスケッチし、石膏棒を彫刻することにより、解剖学的特徴を学ぶ。					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
実習を中心とした授業です。毎回授業の始めにスケッチの描き方、歯牙彫刻のやり方を説明します。 歯牙模型を観察しながら歯牙のスケッチやカービングをします。					
3. 教科書					
歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 (一社)全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社					
4. 参考図書・資料					
5. 授業心得					
・彫刻刀・切り出しナイフを使いますので取扱いに注意して下さい。 ・実習提出物の期限を守って下さい。					
6. 評価の方法					
・定期試験 10% ・提出物 30% ・出席 60%					
7. その他					

令和7年度(第16期生) 年間授業計画 科目:歯牙解剖学

回	修復主題	修復内容
1	歯の概論	講義
2	永久歯・乳歯の名称	講義
3	歯の形態と名称	講義
4	歯の左右の特徴	講義
5	スケッチ・カービングのオリエンテーション	石膏柱の作成
6	上顎中切歯	講義、スケッチ
7	//	彫刻
8	上顎側切歯・犬歯	講義、スケッチ
9	上顎犬歯	彫刻
10	下顎前歯	講義、スケッチ
11	上顎第1・2小白歯	講義、スケッチ
12	上顎第1小白歯	彫刻
13	下顎第1・2小白歯	講義、スケッチ
14	下顎第1小白歯	彫刻
15	上顎第1大白歯	講義、スケッチ
16	//	彫刻
17	下顎第1大白歯	講義、スケッチ
18	//	彫刻
19	上下顎第2大白歯	講義、スケッチ
20	乳歯の特長	

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
組織・発生学	1 学年	前期	講義	2	16
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
岡田 和樹／山本 仁	水曜日 /4 講目 木曜日 /1 講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<一般目標> ・人体の構造と機能、組織・発生についての概要を理解する。 ・口腔とその周囲組織の構造と機能について理解する。 <到達目標> ①細胞膜、核、細胞小器官の構造と機能を概説できる。 ②細胞周期と細胞分裂を概説できる。 ③上皮組織の特徴を説明し、形態的・機能的に分類できる。 ④皮膚と粘膜の構造・機能の相違を説明できる。 ⑤筋組織の構造と機能を概説できる。 ⑥神経組織の構造と機能を概説できる。 ⑦歯髄の組織学的構造と機能を説明できる。					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
教科書の他に図譜のコピー等を用い理解を助ける。					
3. 教科書					
歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能Ⅰ 解剖学・組織発生学・生理学」 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織学・口腔生理学」 (一社)全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社					
4. 参考図書・資料					
5. 授業心得					
・要点は板書しますので、すべてノートにとること。					
6. 評価の方法					
定期試験 100%					
7. その他					

令和7年度(第16期生) 年間授業計画 科目：組織・発生学

回	修復主題	修復内容
1	細胞	細胞の構造、一生を理解する
2	組織	細胞の種類、上皮組織、支持組織を学ぶ
3	組織	筋組織、神経組織について学ぶ
4	組織	皮膚と粘膜について学ぶ
5	発生	精子、卵子の発生、染色体、受精と着床について学ぶ
6	発生	胚葉の形成、胎児の成長と発育について学ぶ
7	発生	骨の発生、顔面と口腔の発生 顔面、口蓋、舌、下垂体、甲状腺の形成過程
8	発生	歯の一生(蕾状期、帽状期、鐘状期、石灰化期の歯胚の形成過程を理解。歯根、歯根膜を理解する。
9	口腔組織(エナメル質)	エナメル質の性状、構造(エナメル小柱、レチウス条、シュレーゲル条等を学ぶ)
10	口腔組織(象牙質)	象牙質の概略、性状、構造、第2象牙質,等を学ぶ
11	口腔組織(歯髄)	歯髄の概略、組織構造、機能等を学ぶ
12	口腔組織(セメント質)	歯髄の概略、組織構造、機能等を学ぶ
13	歯根膜・歯槽骨	歯根膜の構造と機能について学ぶ 歯槽骨の構造と機能について学ぶ
14	歯肉	歯肉の分類、構造について学ぶ
15	口腔粘膜、 唾液腺、舌	口腔粘膜の構造、口腔粘膜の機能的分類を学ぶ 唾液腺と舌の構造を学ぶ
16	歯の萌出と交換	歯の萌出と交換の際に起こる現象を学ぶ

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
病理学・口腔病理学	1 学年	前期	講義	2	15
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のaccees	
上田 慶大	水曜日・3 講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<一般目標> 疾病の概念、その発生機序と病理学的特徴を理解する。歯と歯周組織ならびに口腔領域に発生する疾患の病態を理解する。 <到達目標> ①細胞・組織の変性、萎縮、壊死について概説できる。 ②肥大、増生、化生、再生について概説できる。 ③炎症の定義の説明ができる。 ④炎症を分類できる。 ⑤免疫異常について概説できる。 ⑥腫瘍の病因と進展を概説できる。 ⑦歯の発育障害について種類と病態を概説できる。 ⑧根尖性歯周疾患の病因と病態を説明できる。					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
基本的には教科書に従い講義を行う。 必要に応じて補助的教材としてプリントを配布したり、プロジェクターを使用し示説を行う。 理解しやすいようにできるだけ歯科臨床に即した講義を行う。 適宜小プリント等により学生に課題を与え、それに対する発表や討論を行う。					
3. 教科書					
歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進」 病理学・口腔病理学」 (一社)全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社					
4. 参考図書・資料					
5. 授業心得					
病理学を理解する上で、解剖や組織学、発生学などの基本的な知識が必要であるので、それらの科目を十分に復習することが望ましい。					
6. 評価の方法					
・定期試験 100%					
7. その他					

令和7年(第16期生) 年間授業計画 科目：病理学・口腔病理学

回	修復主題	修復内容
1	病因論、代謝障害	病理学の概略と病気の原因について、 変性、壊死、萎縮について
2	増殖と修復、循環障害	肥大、化生、再生、創傷の治癒について、 循環系の概要と循環障害について
3	炎症	炎症について
4	免疫、免疫異常	免疫について
5	遺伝性疾患、奇形、腫瘍	遺伝性疾患、奇形について、腫瘍について
6	歯の発育異常、歯の損傷と付着物	歯の発育異常について、 歯の損傷と付着物について
7	う蝕	う蝕について
8	象牙質・歯髄複合体の病変、 根尖部歯周組織の病変	象牙質・歯髄複合体の病変について、 根尖部歯周組織の病変について
9	辺縁部歯周組織の病変	辺縁部歯周組織の病変について
10	歯科治療に伴う治癒の病理	歯科治療に伴う治癒の病理について
11	口腔の発育異常(奇形を含む)	口腔の発育異常(奇形を含む)について
12	口腔粘膜疾患、口腔癌・前癌病変	口腔粘膜疾患について、口腔癌・前癌病変について
13	口腔の嚢胞、口腔の腫瘍と腫瘍性病変、	口腔の嚢胞について、 口腔の腫瘍と腫瘍性病変について
14	顎骨の病変、唾液腺疾患	顎骨の病変について、唾液腺疾患について
15	加齢に伴う口腔病変、 全身疾患と口腔病変	加齢に伴う口腔について、 全身疾患と口腔について

回	修復主題	修復内容
1	微生物学の発達と歴史	1) 微生物学とは 2) 微生物学発展の歴史 3) 免疫学発展の歴史 4) 口腔微生物学の歴史 5) 感染症の変遷
2	微生物の一般的症状	1) 細菌の形態、構造および代謝について 2) 細菌の増殖のしくみ 3) バイオフィルム 4) リケッチア・クラミディアの特性について
3	微生物の培養法と観察方法	1) 細菌の培養法、培地について 2) 顕微鏡による観察法について
4	感染と発症	1) 感染と発症の定義 2) 微生物の病原因子 3) 宿主の抵抗性(自然免疫)について 4) 微生物の侵入から発症までの過程
5	免疫	1) 免疫概念と免疫に関与する細胞の種類とその機能
6	免疫	1) 細胞と抗体による免疫(液性免疫)
7	免疫	1) ワクチン・細胞性免疫・粘膜免疫
8	免疫	1) I~IV型アレルギー 2) 自己免疫 3) 免疫不全症候群
9	病原微生物各論	1) グラム陽性球菌 2) グラム陰性球菌 3) グラム陰性桿菌 4) グラム陽性桿菌
10	病原微生物各論	1) スピロヘーター 2) マイコプラズマ 3) リケッチケア 4) クラミディア 5) ウイルス 6) プリオン 7) 真菌 8) 原虫
11	化学療法	1) 化学療法の定義 2) 薬剤耐性 3) おもな化学療法剤について 4) 化学療法剤の選び方 5) 化学療法剤の副作用
12	滅菌と消毒	1) スタンダード・プレコーション 2) 滅菌と消毒の違い 3) 滅菌方法とその特徴 4) 消毒法あるいは消毒法の特徴とその有効性について
13	口腔内常在微生物	1) 口腔常在菌叢 2) 口腔内環境 3) 唾液の感染防御樹序 4) 口腔内微生物の分布 5) デンタルプラーク 6) 歯石の形成 PMTC、スケーリング、及びルートプレーニングの細菌学的意義
14	齲蝕症	1) 齲蝕症 2) 歯髄炎 3) 歯根尖感染性疾患
15	歯周病	1) 歯周病の発症と進行に関わるさまざまな要因 2) 病原菌原性細菌のもつ病原性因子 3) 歯周病原性細菌に対する宿主免疫応答と、その免疫病理学的反応 4) 歯周病原性細菌は、直接・間接的に健康破綻に関わる根拠について
16	口腔内症状がみられるその他の感染症と歯科診療上留意すべき口腔外感染症	1) 口腔内症状がみられるその他の感染症 2) 歯科診療上留意すべき口腔外感染症

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
口腔衛生学	1 学年	通年	講義	3	23
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
山本 淳子	木曜日・1 講目			講義時に連絡	

1. 授業の一般目標と到達目標

<一般目標> 歯・口腔の健康に関わる社会の仕組みを理解し、歯科疾患の予防能力を高める態度を習得する。

<到達目標> ①歯・口腔の健康を保持・増進する手段について概説する。

②口腔の健康の定義、全身の健康との関係を説明できる。

③歯・口腔の形成・発育・形成異常・付着物・沈着物を説明できる。

④口腔を構成する粘膜、舌、顎関節等の組織の構造・働き・唾液腺について説明できる。

⑤口腔清掃の意義と種類・不適切な口腔清掃による為害作用とその予防法を説明できる。

⑥歯磨剤と洗口剤の種類と組成について説明できる。

⑦う蝕・歯周疾患の疫学的特性を概説できる。

⑧う蝕発生と進行のメカニズム、う蝕の要因について・予防方法について説明できる。

⑨フッ化物応用によるう蝕予防法を説明できる。

⑩フッ素の毒性について、正しい対処法を理解できる。

⑪歯周疾患の種類と原因・予防法を説明できる。

⑫健康な歯周組織の構造・歯周疾患の炎症の広がりと症状を説明できる。

⑬歯周疾患のリスクファクター・全身に与える影響・予防法・治療における処置を説明できる。

⑭不正咬合を起こす要因、予防可能な要因について説明できる。

⑮口腔癌・口腔機能低下症・口内炎等の実態・予防法等の説明ができる

⑯口臭の分類・原因・予防法、口腔乾燥症の要因と予防について説明できる。

2. 授業の進め方(授業の方法)

・教科書に遵守する。

・教科書の他にプリント等を使用し理解を助ける。

3. 教科書

歯科衛生士シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み | 保健生態学」

4. 参考図書・資料

5. 授業心得

・歯科衛生士として重要かつ比重の高い分野なので意欲的に授業に参加すること。

・授業中の私語、居眠りは厳禁。

・必ず教科書を忘れずに持参し、提出物は必ず期日に提出すること。

6. 評価の方法

・定期試験 100%

7. その他

回	修復主題	修復内容
1	Ⅱ編歯・口腔の健康と予防Ⅰ章 総論	①歯・口腔の健康 ②歯・口腔の構造と機能
2	Ⅱ編Ⅰ章 総論	②歯・口腔の構造と機能
3	Ⅱ編Ⅰ章 総論	②歯・口腔の構造と機能
4	Ⅱ編Ⅰ章 総論	②歯・口腔の構造と機能
5	Ⅱ編Ⅰ章 総論	②歯・口腔の構造と機能
6	Ⅱ編Ⅰ章 総論	③歯・口腔の付着物・沈着物
7	Ⅱ編Ⅰ章 総論	③歯・口腔の付着物・沈着物
8	Ⅱ編2章 歯科疾患の疫学	①う蝕の疫学②歯周病の疫学 ③歯の喪失の疫学④その他の疫学
9	Ⅱ編3章 口腔清掃	①口腔清掃の意義 ②口腔清掃法 ③機械的清掃法と用具
10	Ⅱ編3章 口腔清掃	④不適切な口腔清掃による為害作用 ⑤歯磨剤と洗口液・洗口剤
11	Ⅱ編4章 う蝕の予防	①う蝕の発生・進行のメカニズム ②う蝕の分類と症状 ③う蝕の発生要因
12	Ⅱ編4章 う蝕の予防	③う蝕の発生要因 ④う蝕活動性 ⑤う蝕の予防法
13	Ⅱ編5章 フッ化物によるう蝕予防	①わが国のフッ化物応用 ②フッ化物の一般性状と用語 ③人間生態系におけるフッ化物 ④フッ化物摂取量とその基準 ⑤フッ素の代謝 ⑥フッ化物の毒性
14	Ⅱ編5章 フッ化物によるう蝕予防	⑦フッ化物応用によるう蝕予防方法
15	Ⅱ編5章 フッ化物によるう蝕予防	⑦フッ化物応用によるう蝕予防方法 ⑧フッ化物のう蝕予防メカニズム
16	Ⅱ編6章 歯周疾患の予防	①歯周疾患の症状と分類 ②歯周疾患の発生機序
17	Ⅱ編6章 歯周疾患の予防	③歯周疾患の全身に与える影響 ④歯周疾患の予防手段と処置
18	Ⅱ編7章 その他の疾患・異常の予防	①口内炎 ②口腔癌 ③不正咬合 ④顎関節症
19	Ⅱ編7章 その他の疾患・異常の予防	①歯の形成不全 ②口臭の予防 ③口腔乾燥症
20	Ⅱ編7章 その他の疾患・異常の予防	①歯の損耗 ②歯の破折 ③口腔の外傷 ④着色歯・変色歯 ⑤口腔機能低下症 ⑥味覚異常など★歯科疾患実態調査について
21	総論	まとめ①
22	総論	まとめ②
23	総論	総合練習問題

專門分野

齒科衛生士概論

齒科医療倫理学

齒科臨床概論

口腔保健管理

齒科予防処置・う蝕予防処置法

栄養指導学

齒科保健指導法

齒科放射線学

齒科材料学

齒科診療補助法

臨地・臨床実習

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
歯科衛生士概論	1 学年	後期	講義	1	8
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のaccees	
椎名 美貴	月曜日・4講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<一般目標> 歯科医療における歯科衛生士の法的な位置づけと業務内容を理解し、歯科衛生士の役割、それに伴う知識や技術を学ぶ。 <到達目標> ① 歯科衛生士の定義を述べる ② 歯科衛生士業務の構成要素を説明できる。 ③ 歯科衛生過程の6つのステップと意味を説明できる。 ④ 保健・医療・福祉専門職それぞれの業務の概要を説明できる。 ⑤ 他職種との連携とチーム医療について概説できる。 ⑥ 歯科衛生業務と医療安全とを関連づけて説明できる。					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
・講義を中心に進める。					
3. 教科書					
最新歯科衛生士教本「歯科衛生学総論」医歯薬出版					
4. 参考図書・資料					
5. 授業心得					
・決められた期日にレポートを提出すること。					
6. 評価の方法					
・定期試験 100%					
7. その他					

令和7年度(第16期生) 年間授業計画 科目：歯科衛生士概論

回	履修主題	履修内容
1	歯科衛生学とは	・歯科衛生と健康 ・歯科衛生活動の対象と領域
2	歯科衛生の歴史	・歯科衛生の誕生と経緯 ・歯科衛生の背景 ・歯科衛生業務の現状 ・歯科衛生士の役割と展望
3	歯科衛生活動のための倫理	・予防の概念 ・歯科衛生の考え方
4	歯科衛生過程	・歯科衛生過程とは ・歯科衛生過程活用の利点 ・歯科衛生過程の流れ
5	歯科衛生士法と歯科衛生業務	・歯科衛生士と歯科衛生士法 ・歯科衛生士の役割 ・関連法規 ・安全管理
6	歯科衛生士と医療倫理	・倫理の必要性 ・医の倫理と患者の権利 ・歯科衛生と倫理 ・対象の自己決定権の尊重
7	歯科衛生士の活動と組織	・歯科衛生活動の現況 ・歯科衛生活動の場 ・歯科衛生士と組織
8	歯科衛生士業務の展開 海外における歯科衛生士	・臨床実習の心構えと専門職としての姿勢

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
歯科医療倫理学	1 学年	後期	講義	1	8
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
松浦 信一 / 山本 淳子	月曜日・3講目 / 火曜日・1講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<一般目標> 歯科衛生士に必要な倫理観を学ぶ。 <到達目標> 患者さん中心の医療とは何かを述べるができる。					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
歯科医師の話や教科書の内容から、歯科医療倫理とは何かについて考える。 それぞれの考えはレポートにまとめ提出する。 同時に、さまざまな考え方をグループごとに検討する。					
3. 教科書					
歯科衛生士シリーズ : 「歯科医療倫理学」 医歯薬出版株式会社					
4. 参考図書・資料					
5. 授業心得					
・決められた期日にレポートを提出すること。 ・グループディスカッションでは、自分の考えをまとめて話せること。 ・人の考えを聞けること。					
6. 評価の方法					
・定期試験 100%					
7. その他					

令和7年度(第16期生)年間授業計画 科目:歯科医療倫理学

回	履修主題	履修内容
1	医療従事者の基本的義務	患者の生命と健康を学ぶことを知る
2	医療倫理に関する規範	医の倫理に関する宣言等を学ぶ
3	バイオエシックスとは何か	バイオエシックスについて学ぶ
4	バイオエシックスに関わる問題	生命関わる倫理的問題を学ぶ
5	インフォームド・コンセントとは何か	インフォームド・コンセントについて学ぶ
6	インフォームド・コンセントの実際	実際上のさまざまな問題について学ぶ 研究と医療倫理の関わり
7	研究と医療倫理 歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動	倫理的配慮の要件 医療現場における人の行動を学ぶ
8	歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動	患者の行動、歯科医療従事者の行動を学ぶ

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
歯科臨床概論	1 学年	通年	講義	2	16
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のaccees	
加藤公哉(前期) 山本淳子(後期)	木曜日 / 3 講目(前期) 火・木曜日 / 1・2 講目(後期)			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<一般目標> 歯科衛生士としての医療界、そして社会的立場の重要性を自覚することを習得する。 <到達目標> ① 歯科臨床の流れを把握する。 ② 歯科衛生士として歯科臨床の病態、治療方法を覚える。 ③ 歯科臨床における基本的な知識を正確に覚える。 ④ 患者及び歯科医師とのコミュニケーションを円滑にする能力を身につけるための知識を得る。 ⑤ 歯科医療の概要及び歯科衛生士の役割を理解する。					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
・教科書に沿って説明を加えながら行う。 ・教科書の他にプリント等を使用し理解を助ける。(後期)					
3. 教科書					
歯科衛生士のための歯科臨床概論 医歯薬出版株式会社 第2版					
4. 参考図書・資料					
5. 授業心得					
・必ず教科書を忘れずに持参してください。 ・授業中に差し障りのある私語・居眠りは厳禁、携帯電話は禁止。 ・2年次の専門科目の基礎となるので、確実に覚える努力をして欲しい。					
6. 評価の方法					
定期試験 60%、受講出席態度 40% (後期) 定期試験 100%					
7. その他					

令和7年度(第16期生)年間授業計画 科目：歯科臨床概論

回	履修主題	履修内容
1	I編 歯科診療と歯科診療所 1章 歯科診療とは 2章 歯科診療所 3章 歯科診療における業務	・歯科診療とは、医療と診療の意味、医の倫理とインフォームド・コンセント 歯科医療の特異性、歯科診療における人 ・歯科診療所の設備内容、安全管理・保険医療機関(歯科診療所)での業務
2	II編 歯科診療の流れ 1章 ライフステージと歯科診療	・さまざまなライフステージに対応した歯科診療と歯科衛生士の業務 ・患者の心理、患者への対応、加齢と歯科診療の特徴、小児歯科患者への対応 ・高齢者歯科患者への対応、特殊な歯科患者への対応、在宅療養
3	II編 歯科診療の流れ 2章 歯科診療で行うこと 一 主な診療の流れ	・歯科診療所での一般的な診療の流れ ・患者の受け入れ準備、受付、患者の診療室への誘導、予診準備、診査の前準備 ・診察、検査、診断と患者への説明、治療を終了した患者の誘導、メンテナンス ・応急処置、救急処置、訪問診療
4	2章 歯科診療で行うこと 1. 診査・検査・前処置	・バイタルサインと確認の流れ、口腔内の観察・検査、画像検査の概要、 歯周組織検査の重要性・急性・慢性の痛みと処置に伴う痛みのコントロールについて
5	2章 歯科診療で行うこと 2. 小児歯科	・小児歯科とは・小児の特徴・口腔の先天異常・口腔機能の発達・小児歯科診療
6	2章 歯科診療で行うこと 3. 歯科矯正	・矯正歯科治療とは・不正咬合の種類・診断および治療方針の決定 ・矯正歯科治療の概要
7	2章 歯科診療で行うこと 4. 口腔外科	・口腔外科とは、口腔外科診療の流れ、口腔外科における治療内容 ・外傷の治療、抜歯
8	総論	1～7回までのまとめ
9	2章 歯科診療で行うこと 4. 口腔外科	・口腔外科診療の流れ・口腔領域の各種疾患・口腔粘膜疾患 ・口腔外科における治療内容・診査・口腔外科の対象となる患者 ・口腔外科と歯科衛生士
10	2章 歯科診療で行うこと 5. 歯科保存	・歯科保存学とは、保存修復、象牙質知覚過敏症、歯冠部う蝕、根面う蝕
11	2章 歯科診療で行うこと 5. 歯科保存	・歯内療法とは、歯髄保存療法、歯髄除去療法、感染根管治療、歯のホワイトニング
12	2章 歯科診療で行うこと 6. 歯周治療	・歯周治療とは、歯周治療の流れ、歯周基本治療、歯周外科治療、メンテナンス、歯周病と全身疾患
13	2章 歯科診療で行うこと 7. 歯科補綴	・歯科補綴とは・歯科補綴の分類と特徴・クラウン治療の流れ・有床義歯治療の流れ
14	2章 歯科診療で行うこと 8. 障害者歯科・高齢者歯科	・障害者歯科とは・障害者のための歯科保健医療機関・障害者歯科と歯科衛生士 ・高齢者歯科とは、高齢者歯科の特徴、高齢者歯科の重要性 ・摂食嚥下障害への対応、治療の概要、治療の流れ
15	2章 歯科診療で行うこと 8. 障害者歯科・高齢者歯科	・全身疾患への対応、注意すべき薬剤と全身疾患 ・周術期の対応、周術期口腔機能管理とは、周術期口腔機能管理一連の流れ ・歯科訪問診療の必要性、外来診療と訪問診療との違い、訪問診療の概要
16	総論	9～15回までのまとめ

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
口腔保健管理	1 学年	後期	講義・演習	2	15
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
椎名 美貴 / 佐藤 未来	木曜日・3講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<一般目標> 臨床の現場で個々の患者に適した口腔保健管理プログラムを作成し、実践できる能力を習得する。 <到達目標> ①う蝕予防の臨床と歯周疾患予防の臨床の基礎知識を学ぶ。 ②ライフステージごとの口腔保健管理計画の理論と実際を理解する。 ③PMTC ができる。 ④業務記録が書ける。					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
・講義のなかでは、基礎的知識の解説をします。					
3. 教科書					
最新歯科衛生士教本 口腔保健管理					
4. 参考図書・資料					
5. 授業心得					
・受身の授業ではなく、主体性をもって授業に取り組んでください。 ・学習内容に一貫した流れがあるので、欠席すると理解に苦しみます。出席はもちろんのこと、積極的参加を心がけてください。					
6. 評価の方法					
・定期試験 90% 実技 10%					
7. その他					

令和7年度（第16期生） 年間授業計画 科目：口腔保健管理

回	修復主題	修復内容
1	1章 口腔疾患予防の臨床	(1)口腔保健の意義・日常生活と口腔保健・食生活と口腔保健 ・歯科保健行動・歯科健康教育
2	〃	(2)対象把握と予防管理法・疾病発生の予防・う蝕予防の臨床 ・歯周疾患予防の臨床
3	〃	(3)病勢阻止のための継続管理・歯周疾患の継続管理 ・補綴物装着後の継続管理
4	2章 生涯を通じた口腔保健管理	(1)口腔保健管理の実際・ライフステージごとの口腔保健管理計画 ・特別な配慮が必要な人の口腔内の状況と口腔保健管理
5	〃	(2)口腔保健管理の実際・地域包括支援センター ・老人保健事業としての口腔保健管理
6	〃	(3)口腔保健管理の実際介護保険と口腔保健管理 ・要介護高齢者への口腔の清掃法のシステム化
7	3章 口腔観察と口腔清掃	(1)口腔観察と記録・問診・口腔内診査
8	〃	(2)ホームケアとプロフェッショナルケア ・ホームケア・プロフェッショナルケア
9	〃	(3)口腔清掃・継続管理システム・口腔清掃の術式と器材 ・ライフステージ別の口腔清掃指導
10	4章 業務記録	(1)業務記録の目的と意義・業務記録の書き方
11	〃	(2)臨床の場における業務記録
12	5章 口腔保健管理の演習	(1)演習でのポイント・情報の収集について・問題の抽出について ・計画について・実施について・評価について
13	〃	(2)学童期の指導・情報の収集・問題の抽出・指導計画・実施・評価
14	〃	(3)歯周疾患患者の継続管理指導・情報の収集 ・問題の抽出・指導計画・実施・評価
15	〃	(4)要介護高齢者の指導・情報の収集 ・問題の抽出・指導計画・実施・評価

令和7年度(第16期生) 年間授業計画 科目：歯科予防処置法

回	履修主題	履修内容
1	I 歯科予防処置論の総論 I 章 予防の概念とわが国の健康施策	①予防の概念・②わが国の健康推進施策・③法の位置付け ④歯科衛生実践と医療保険制度における歯科予防処置
2	II 基礎知識 - I 章 口腔の基礎知識 III 各論 - 2 章 口腔内の情報収集	歯と歯周組織と口の構造・機能
3	II 基礎知識 - 2 章 う蝕と歯周病の基礎知識	口腔内の付着物・沈着物、プラーク、歯石、う蝕、歯周病
4	III 各論 - 2 章 口腔内の情報収集 検査 (歯周ポケット・歯の動揺度等)	エクスプローラーの種類、使用目的、使い方
5		歯周プローブの種類とピンセットの使用目的、使い方
6	III 各論 - 3 章 スケーリング	手用スケーラーの構成、把持法、操作の基本、基本設定 種類と操作方法(シクルスケーラー)
7		手用スケーラーの部位別操作法(ポジショニング)
8	III 各論 - 3 章 スケーリング マネキン実習	下顎前歯部の操作法
9		上顎前歯部の操作法
10		上下顎左側臼歯部の操作法
11		上下顎右側臼歯部の操作法
12		実習評価(実技試験)
13		
14	III 各論 - 3 章 スケーリング 相互実習	下顎前歯部のプロービング・スケーリング相互実習
15		
16	スケーリング・ルートプレーニング マネキン実習	手用スケーラー(キュレットスケーラー)の種類と操作方法
17		手用スケーラーの部位別操作法(ポジショニング)
18		下顎前歯部の操作法
19		下顎前歯部、上顎前歯部の操作法
20		上顎前歯部、右下臼歯部の操作法
21		右下臼歯部、左下臼歯部の操作法
22		左下臼歯部、左上臼歯部の操作法
23		左上臼歯部、右上臼歯部の操作法
24	実習評価(実技試験)	
25	III 各論 - 3 章 シャープニング	目的、砥石の種類と管理、知識、使用器材、方法
26		シクルスケーラー、キュレットスケーラーのシャープニング
27	III 各論 - 3 章 歯面研磨・歯面清掃 マネキン実習	歯面研磨・歯面清掃の目的、歯面研磨剤、使用器材と操作方法
28	III 各論 - 3 章 歯面研磨・歯面清掃 相互実習	歯面研磨・歯面清掃
29	III 各論 - 3 章 スケーリング 相互実習	
30		プロービング、スケーリング、歯面研磨相互実習

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
栄養指導学	1 学年	前期	講義	2	15
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のaccees	
田村 智美	木曜日・2 講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<一般目標> ・栄養素がなぜ必要か、どのような影響を及ぼすかについて理解させた上で、歯科衛生士として適切な食生活指導ができることを習得する。 ・年齢に応じた食生活指導が適切に行える基礎知識を身につけさせる。 <到達目標> ①各栄養素別の働き、消化吸収の基礎知識を身につける。 ②食生活がう歯、歯周病に及ぼす影響を学習する。					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
学生自身の日常生活に極力照らし合わせながら、食生活上の問題点に気付かせる。また、栄養改善や指導は長期的取り組みが欠かせないため繰り返しの教育を行う。					
3. 教科書					
歯科衛生学シリーズ：「栄養学」医歯薬出版株式会社					
4. 参考図書・資料					
食品成分表					
5. 授業心得					
教科書、プリント、参考資料					
6. 評価の方法					
・定期試験 100%					
7. その他					

回	修復主題	修復内容
1	栄養学と 歯科衛生士	①栄養の概念 ②栄養と食生活の意義 ③歯科衛生士が栄養を学ぶ意義
2	栄養素の種類とはたらき 1	①糖質 ②脂質 ③タンパク質
3	栄養素の種類とはたらき 2	④ビタミン ⑤ミネラル ⑥食物繊維 ⑦水
4	栄養素の消化・吸収	①消化・吸収と栄養 ②消化の種類 ③消化の過程 ④吸収のメカニズム ⑤栄養素の体内動態 ⑥栄養素別の消化・吸収
5	健康と栄養	①食生活を取り巻く施策 ②日本人の食事摂取基準 ③食品の安全
6	食事と食品 1	①食事の基本 ②食事バランスガイド ③食品群の分類と特徴
7	食事と食品 2	④食品の機能 ⑤食品の表示 ⑥食品の調理
8	ライフステージと栄養 1	①妊娠期における栄養 ②授乳期における栄養 ③乳児期における栄養
9	ライフステージと栄養 2	④幼児期における栄養 ⑤学童期における栄養 ⑥思春期における栄養 ⑦成人期における栄養
10	ライフステージと栄養 3	⑧高齢期における栄養
11	栄養ケア・マネジメント	①チームアプローチと栄養ケア・マネジメント ②栄養スクリーニング ③栄養アセスメント ④栄養ケア計画 ⑤実施とモニタリング ⑥評価
12	献立作成 1	①グループによる献立の作成(調理のテーマ、材料の選定)
13	献立作成 2	②グループによる献立の作成(調理工程、役割の確認)
14	調理実習 1	①各グループによる調理実習
15	調理実習 2	②各グループによる調理実習

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
歯科保健指導法	1 学年	通年	講義・演習・実習	2	30
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
田村 智美/その他	月～金			講義時に連絡	

1. 授業の一般目標と到達目標

<一般目標> 健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持し、増進するために、
プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を修得する。

1. 総論

<一般目標> 対象となる個人と集団の歯科保健指導に必要な基本的知識、技術および態度を修得する。

<到達目標>

- 1) 概要
  - ① 歯科保健指導の概要を説明できる。
  - ② 歯科保健指導を個人と集団に分けて説明できる。
  - ③ プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーションおよびノーマライゼーションを説明できる。
- 2) 生活行動
  - ① 行動科学を説明できる。
  - ② 行動変容を説明できる。

2. 歯科保健指導の基礎

<一般目標> 歯科保健指導の基礎となる対象者の把握と評価に基づいた歯科衛生過程を習得する。

<到達目標>

- 1) 対象把握
  - ① 対象者の日常生活習慣行動と生活環境を把握できる。
  - ② 対象者の日常生活自立度 (ADL) について把握できる。
- 2) 全身状態の把握
  - ① 全身的な健康状態を把握できる。
- 3) 歯・口腔状態の把握
  - ① 歯・口腔の疾患と異常の観察と評価ができる。
  - ② 口腔清掃状態の把握と指標を基に診査できる。
  - ③ 口腔機能について把握することができる。
- 4) 医療面接
  - ① 質問紙調査票について説明できる。
  - ② コミュニケーション・モチベーションについて説明できる。
  - ③ 対象者に対する適切な対話法ができる。
- 5) 歯科衛生過程
  - ① 歯科衛生過程の概念を説明できる。

3. 口腔清掃指導法

<一般目標> 口腔清掃指導に必要な知識、技術および態度を修得する。

<到達目標>

- 1) 基礎知識
  - ① 歯・口腔の清掃に関連する清掃用具の特徴と操作方法について説明できる。
  - ② 歯磨剤と洗口剤の特徴について説明できる。
- 2) 対象別の指導法
  - ① 各ライフステージ別の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる。

4. 生活指導

<一般目標> ライフステージと機能障害に応じた生活指導に必要な知識、技術および態度を修得する。

<到達目標>

- 1) 基礎知識
  - ① 各ライフステージ別の生活習慣の把握ができる。
  - ② 各ライフステージ別の食生活の把握ができる。
  - ③ 食生活に関連する栄養素、栄養食品および食事摂取基準を説明できる。

5. 歯科衛生教育活動

<一般目標>

対象となる集団または個人に応じた歯科衛生教育活動の場を把握し、必要な知識、技術および態度を習得する。

<到達目標>

- 1) 基礎知識
  - ① 集団レベルの予防と健康管理（地域歯科保健）を説明できる。
  - ② 歯科衛生教育活動における歯科衛生士の役割を説明できる。
  - ③ 歯科衛生教育活動についての関連法規を説明できる。
- 2) 保育所、幼稚園
  - ① 保育所、幼稚園に入所する乳幼児の実態の把握ができる。
  - ② 保育所、幼稚園に入所する乳幼児を対象としたし歯科衛生教育ができる。
- 3) 在宅（居宅）、介護・社会福祉施設

2. 授業の進め方（授業の方法）

講義
実習
講義と実習の同時進行

3. 教科書

歯科衛生学シリーズ：「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」医歯薬出版株式会社
最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」医歯薬出版株式会社

4. 参考図書・資料

5. 授業心得

実習に必要なものの忘れ物をしない。
爪、頭髪などの身だしなみを整えて臨む。
アクセサリー、時計は外す。

6. 評価の方法

・定期試験 90% 実技試験 10%

7. その他

使用器材・・・顎模型、歯ブラシセット

令和7度(16期生) 年間授業計画 科目：歯科保健指導法

回	履修主題	履修内容
1	総論	歯科保健指導の定義・内容、健康・予防の概念
2	歯科保健指導の基礎	口腔の基礎知識
3	口腔清掃実習法 1	歯の汚れの状態の観察、汚染部位の描記①
4	口腔清掃実習法 2	歯の汚れの状態の観察、汚染部位の描記②
5	口腔内観察法実習 1	口腔清掃指数(O'LearyのPCR)
6	口腔内観察法実習 2	口腔清掃指数(OHI, OHI-S)
7	口腔内観察法実習 3	舌・頬粘膜観察
8	口腔清掃法 1	歯ブラシの形態、各部の名称
9	口腔清掃法 2	ブラッシング方法(毛先磨き)
10	口腔清掃法 3	ブラッシング方法(脇腹磨き)
11	口腔清掃法 4	歯磨剤・洗口剤
12	口腔清掃法 5	デンタルフロス、歯間ブラシ、タフトブラシ、スポンジブラシ、舌ブラシ、他
13	口腔清掃法 6	電動・音波・超音波ブラシ
14	歯科保健指導実施のための基礎知識	行動変容の要素とそのステップ 食生活指導の基礎
15	ブラッシング指導モデル実習	ブラッシング指導
16	歯科衛生過程の基礎知識	歯科衛生過程とは
17	面接問診法実習	診療録、問診事項、初診時面接法
18	歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理	分析のためのデータ(指数)
19	歯科衛生活動の展開 1	ライフステージにおける歯科衛生介入①(妊産婦・新生児・乳幼児)
20	歯科衛生活動の展開 2	ライフステージにおける歯科衛生介入②(学齢期・青年期・成人期)
21	歯科衛生活動の展開 3	ライフステージにおける歯科衛生介入③(老年期・要介護高齢者・障害者)
22	地域歯科保健活動 1	地域歯科保健活動における健康教育
23	地域歯科保健活動 2	媒体作成①
24	地域歯科保健活動 3	媒体作成②
25	地域歯科保健活動 4	媒体作成③
26	地域歯科保健活動 5	媒体作成④
27	地域歯科保健活動 6	媒体作成⑤
28	地域歯科保健活動 7	媒体作成⑥
29	地域歯科保健活動 8	高齢者・障害者施設へ向けて
30	地域歯科保健活動 9	幼稚園・保育園実習で行う媒体、ブラッシング指導の発表会

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
歯科放射線学	1 学年	後期	講義	1	8
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のaccees	
田中 力延	水曜日・4講目			講義時に連絡	

1. 授業の一般目標と到達目標

<一般目標>

歯科で使用される画像検査の特徴と適応ならびに放射線に対する正しい知識を習得する。

<到達目標>

- ①放射線の生物学的影響を理解し、放射線防護を概説できる。
- ②エックス線画像の形成原理を概説できる。
- ③口内法ならびにパノラマエックス線撮影の手技を説明できる。

2. 授業の進め方(授業の方法)

スライドを用い、まとめテストをやる予定です。

3. 教科書

歯科衛生学シリーズ：「歯科放射線 第2版」医歯薬出版株式会社

4. 参考図書・資料

5. 授業心得

・復習に力を入れてください。

6. 評価の方法

・定期試験 + 小テスト + 出席 = 100%

7. その他

令和7年度(第16期生) 年間授業計画 科目：歯科放射線学

回	修復主題	修復内容
1	歯科におけるX線写真と画像診断	X線写真とその特徴
2	放射線とその性質	放射線の種類と性質、量
3	放射線の体への影響と防護	X線の利点、欠点
4	X線画像の形成	X線画像とデジタル画像の違い
5	口内法X線撮影	口内法の種類
6	パノラマX線撮影	パノラマX線撮影法
7	口内法X線撮影の準備	口内法X線撮影法
8	全額撮影(10枚法)	上顎撮影の要点

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
歯科材料学	1 学年	後期	講義	1	8
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
種 田 知 格	水曜日・3 講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<一般目標> 歯科材料の名称、用途、基本的性質、特徴、取扱法など科学的視点をもって習得する。 <到達目標> ①歯科材料の名称及びその成分を述べることができる。 ②歯科材料を取り扱う際に必要な器材とその使用法がわかる。 ③歯科材料を操作した時に生じる化学反応、物理的变化を理解する。 ④各歯科材料の用途、目的について説明できる。 ⑤製品の説明書が理解できる。 ⑥各歯科材料の標準的な取扱いが身についている。					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
講義中心 この講義を踏まえて、臨床実習に繋げる。					
3. 教科書					
第 5 版 イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 歯科衛生学シリーズ「歯科材料」					
4. 参考図書・資料					
講義時に適宜資料を配布する。					
5. 授業心得					
・学生の常識に則り授業に臨む。 ・臨床実習に臨むにあたって歯科材料の知識は必要不可欠なものです。					
6. 評価の方法					
定期試験 100%					
7. その他					

令和7年度(第16期生) 年間授業計画 科目：歯科材料学

回	修復主題	修復内容
1	第1章	・歯科材料の素材、分類所要性質、基本的性質
	歯科材料の基礎知識	
2	第3章IV-9: シーラント	・シーラントの種類、取り扱い ・コンポジットレジン の組成と種類、取扱法 ・接着システムについて
	第2章 4 歯冠修復材 2:コンポジットレジン	
3	第2章歯冠修復材 3: グラスアイオノマーセメント	・グラスアイオノマーの分類と組成、取扱法 ・歯科用アマルガムの組成、取扱法 ・歯髄保存療法の術式と使用材料
	4:アマルガム	
	第3章 7, 8: 歯髄保存療法・MTA セメント	
4	第2章 1: 印象材	・印象材の種類 ・各種印象材の特徴、取扱法
5	第3章V-1: ワックス	・ワックスの種類と用途 ・各種模型材の種類、性質、取扱 ・補綴物鑄造の実際
	第2章2: 模型用材料	
6	第2章5: 仮封材、仮着材	・仮封材、仮着材の種類、性質、取扱
	第3章II-8: 暫間被覆冠	
7	第2章6-3~9: 各種補綴材料	・各種補綴材料の種類、性質、取扱 ・CAD/CAM による補綴物の製造 ・インプラント治療の実際
	第2章6-1: インプラント	
8	第2章3合着・接着材	・合着・接着の違い ・各種合着材、接着剤の種類、性質、取扱

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
歯科診療補助法	1 学年	通年	講義・実習	2	30
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
大串 瑠菜	月曜日・4 講目/他			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<一般目標> さまざまなライフステージにおける高度医療に対応するために、専門的な歯科診療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を身につける。 1 診療補助 <一般目標> 専門的な歯科診療の補助に対応するために必要な基本的知識、技術および態度を習得する <到達目標> 1) 概要 ①歯科診療の補助と介助の違いを述べるができる。②歯科診療補助における歯科衛生士の役割を列挙できる。 ③チーム歯科医療の必要性を述べるができる 2) 診療設備 ①診療室の環境と設備を整えられる。②歯科用ユニットの管理ができる。 ③消毒・滅菌器具の管理ができる。 3) 診療時の共同動作 ①診療に応じたバキューム操作ができる。 4) 消毒・滅菌 ①消毒の取り扱いができる ②各種滅菌器械の取り扱いができる。③消毒・滅菌器具の準備ができる 2 主要歯科材料の種類、取り扱いと管理 <一般目標> 歯科診療の補助に対応するために歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および標準的な使用方法を修得する。 <到達目標> ①模型材の取り扱いができる。②各種合着・接着材を練和(混和)できる。 ③各種印象材を練和し、採得ができる。④概形印象の採得ができる。 ⑤歯冠修復材の取り扱いができる。⑥仮封材の取り扱いができる。⑦ラバーダム防湿ができる。					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
・実習 ・講義と実習の同時進行					
3. 教科書					
歯科衛生学シリーズ : 「歯科診療補助論 第2版」 医歯薬出版株式会社					
4. 参考図書・資料					
第4版 イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 最新歯科衛生士教本 「歯科材料」「歯科機器」					
5. 授業心得					
私語禁止。携帯OFF。爪切りそろえマニキュア等しない、頭髪等の身だしなみを整えて臨む。 アクセサリ、時計、装飾品ははずす。実習時は、スクラブ、実習靴。意欲的に実習に取り組んでください。 生活習慣を整えて、授業に参加してください。(睡眠時間をたっぷりと確保すること。)					
6. 評価の方法					
定期試験 90% 口頭試問、実技試験、出席点 10%					
7. その他					
・積極的に実習に臨み、終了後も結果、反省、感想をまとめ実際に役立たせるよう反復練習をして自分のものにして下さい。					

令和7年度(第16期生) 年間授業計画 科目: 歯科診療補助法

回	履修主題	履修内容
1	歯科診療補助の概要 ①	・歯科診療補助の位置付け・歯科診療補助業務と他の医療職種
	医療安全と感染予防 ①	・医療安全・感染予防
2	医療安全と感染予防 ②	・感染予防・医療廃棄物の取り扱い
3	医療安全と感染予防 実習 ③	・手指衛生(手指消毒)・グローブの着脱
4	歯科診療室の基礎知識 ①	・歯科診療室の基礎知識・歯科診療所における受診の流れ
5	歯科診療室の基礎知識 ②	・歯科領域に必要な臨床検査・画像検査・薬品(薬物)、歯科材料の管理
6	歯科診療室の基礎知識 実習 ③	・歯科診療所における受診の流れ・歯科領域に必要な臨床検査
7	歯科診療補助の基礎知識 ①	・共同動作
8	歯科診療補助の基礎知識 実習 ②	・フォーハンドレットデンティストリー・器具の受け渡し
		・バキュームテクニック・スリーウェイシリンジテクニック
9	歯科診療補助の基礎知識 実習 ③	・フォーハンドレットデンティストリー・器具の受け渡し
		・バキュームテクニック・スリーウェイシリンジテクニック
10	歯科診療補助の基礎知識 ④	・ラバーダム防湿・歯肉圧排
11	歯科診療補助の基礎知識 実習 ⑤	・ラバーダム防湿・歯肉圧排
12	歯科診療補助の基礎知識 実習 ⑥	・ラバーダム防湿・歯肉圧排
13	歯科臨床と診療補助 ①	・保存修復時の診療補助(直接修復、間接修復)
14	歯科臨床と診療補助 ②	・保存修復時の診療補助(漂白法)
15	歯科臨床と診療補助 ③	・歯科麻酔時の診療補助(局所麻酔)
16	歯科臨床と診療補助 ④	・救命救急処置
17	歯科臨床と診療補助 ⑤	・妊産婦の診療補助・高齢者の診療補助・障害児の診療補助
18	歯科訪問診療における対応 ①	・歯科訪問診療の補助
19	歯科診療で使用する歯科材料 ①	・印象採得・模型の製作
20	歯科診療で使用する歯科材料 実習 ②	・アルジネート印象材による概形印象採得
21	歯科診療で使用する歯科材料 実習 ③	・アルジネート印象材による概形印象採得
22	歯科診療で使用する歯科材料 実習 ④	・スタディモデルの作成
23	歯科診療で使用する歯科材料 実習 ⑤	・スタディモデルの作成
24	歯科診療で使用する歯科材料 ⑥	・合着、接着の補助
25	歯科診療で使用する歯科材料 ⑦	・成形修復の補助
26	歯科診療で使用する歯科材料 ⑧	・仮封材、仮着の補助
27	歯科診療で使用する歯科材料 ⑨	・仮封材、仮着の補助
28	歯科診療で使用する歯科材料 ⑩	・ワックス
29	まとめ ①	総合演習
30	まとめ ②	総合演習

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
臨地実習	1 学年	後期	実習	1	23
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のaccees	
椎名 美貴・臨地実習指導教員	月曜日～金曜日			0157-33-1316	

1. 授業の一般目標と到達目標

<一般目標>

歯科衛生業務を修得するために、地域保健活動などの場を通して歯科衛生士として必要な知識、技術および態度を身につける。

<到達目標>

- ①対象者のプライバシーを配慮した対応ができる。
- ②スタッフとの協働、連携した対象者へのサービスができる。
- ③施設等のルールを理解した行動ができる。
- ④集団を対象に歯科衛生教育活動ができる。

2. 授業の進め方(授業の方法)

臨床実習施設以外の実習施設として保育園、幼稚園、老人福祉施設、障害児(者)施設などを見学する。見学前の授業では、見学する視点を説明。見学後は、観察した事柄を客観的に評価する。

3. 教科書

4. 参考図書・資料

5. 授業心得

身だしなみを整える。
 良好なコミュニケーションを図る。
 学習意欲を持ち、見学・実習に取り組む。

6. 評価の方法

・実習評価 100%

7. その他

・実習生としての自覚と責任感をもつ。明るい挨拶や返事をする事。

回	修復主題	修復内容
1	臨地・臨床実習 1	保育園・幼稚園・高齢者施設・障害者施設での実習 ・園児とコミュニケーションを図りながら口腔衛生指導を实践する。 ・要介護高齢者のADLを把握し、利用者とのコミュニケーションを図る ・障害者とふれあい、対応能力を身に付ける
2	// 2	
3	// 3	
4	// 4	
5	// 5	
6	// 6	
7	// 7	
		計 7日間

選択必修分野

健康と体づくり

介護技術

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
健康と体づくり	I 学年	通年	実技実習	I	20
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
鈴木 ひろ子 / 他	金曜日・2講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<一般目標> ・基礎体力維持向上のために、身体と精神力の健康の重要性を知る。 <到達目標> ・生活習慣の観点から定期運動の必要性の知識を身につける。					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
レクチャーにて理論を伝え、実践するレッスン型式					
3. 教科書					
プリント配布					
4. 参考図書・資料					
解剖学					
5. 授業心得					
動きやすい運動着、シューズ、水分やタオルを準備する。 遅刻、中途退室などないように					
6. 評価の方法					
実技試験100%					
7. その他					

令和7年度(第16期生) 年間授業計画 科目：健康と体づくり

回	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション、レクチャー	トレーニングジム説明、利用手順など
2	ストレッチング、ヨガ	ストレッチ効果方法 ヨガポーズ体験
3	ストレッチング、ヨガ	ストレッチ効果方法 ヨガポーズ体験
4	エアロビクス、レクチャー	エアロビクス運動の効果と実践
5	エアロビクス、レクチャー	エアロビクス運動の効果と実践
6	エアロビクス、レクチャー	エアロビクス運動の効果と実践
7	バーベル、レクチャー	バーベルを用いて使い方を実技
8	バーベル、レクチャー	バーベルを用いて使い方を実技
9	バーベル、レクチャー	バーベルを用いて使い方を実技
10	バーベル、レクチャー	バーベルを用いて使い方を実技
11	ステップエアロビクス	ステップ台を用いてのエアロビクス
12	ステップエアロビクス	ステップ台を用いてのエアロビクス
13	ステップエアロビクス	ステップ台を用いてのエアロビクス
14	ステップエアロビクス	ステップ台を用いてのエアロビクス
15	ピラティス	レクチャーと実技
16	フルボックス	格闘系エアロビクスの実技
17	ピラティス	レクチャーと実技
18	フルボックス	格闘系エアロビクスの実技
19	ピラティス	レクチャーと実技
20	フルボックス	格闘系エアロビクスの実技

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
介護技術	1 学年	前期	講義・演習・実習	5	87
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のaccess	
畠山友子・田村智美・他	月曜日～金曜日			講義時に連絡	
1. 授業の目的と到達目標					
目的 学習した生活支援を目標に創意工夫のある取り組みを行ない、多様化する社会のニーズにこたえる。利用者の生活意欲を引き出し、自立支援や介護予防の視点で介護を提供することができる。 目標 介護職員初任者研修課程修了の資格の取得 専門職として、福祉サービス提供時に適切な対応ができる知識、技術を身につける。					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
前半はテキストに沿って講義を中心に実施し、さらに実技講習を集中して行なう。 実技講習ではグループを組み、介護者、要介護者を想定し実際に行なうヘルパー支援の介護技術を学ぶ。 その後ローテーションを組み指定の介護老人福祉施設にて実習を行い現場の学習をする。					
3. 教科書					
中央法規 介護職員初任者 研修テキスト 1・2					
4. 参考図書・資料					
5. 授業心得					
・ 専門職の有資格者になることを意識し真剣に学習に望む。 ・ 実技講習では動きやすい服装で清潔に気配りし、積極的に学び技術を身につける。 ・ 講義中の板書をノートにまとめ、提出物は期限を守る。					
6. 評価の方法					
すべてのカリキュラムの講義、実技、施設実習を終了し筆記試験100%に合格した者に資格を取得させる。 講義を欠席した場合はレポート提出。(実技、施設実習はやむを得ないと判断されない以外は認めない。)					
7. その他					

	種別	時間	内 容
1	講義	1.5	1 職務の理解 1 多様なサービスの理解
2	講義	1.5	1 職務の理解 2 介護職の仕事内容や働く現場の理解
3	講義	1.5	1 職務の理解 2 介護職の仕事内容や働く現場の理解
4	講義	1.5	1 職務の理解 2 介護職の仕事内容や働く現場の理解
5	講義	1.5	2 介護における尊厳の保持・自立支援 1 人権と尊厳を支える介護
6	講義	1.5	2 介護における尊厳の保持・自立支援 2 自立に向けた介護
7	講義	1.5	3 介護の基本 介護職の安全
8	講義	1.5	3 介護の基本 1 介護職の役割、専門性と多職種との連携
9	講義	1.5	3 介護の基本 3 介護における安全の確保とリスクマネジメント
10	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 3 介護に関するからだのしくみの基礎的理解
11	講義	1.5	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 1 介護保険制度
12	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 2 快適な居住環境整備と介護
13	講義	1.5	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 1 介護保険制度
14	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
15	講義	1.5	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 2 医療との連携とリハビリテーション
16	講義	1.5	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 2 医療との連携とリハビリテーション
17	講義	1.5	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 3 障害者自立支援制度およびその他の制度
18	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
19	講義	1.5	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 3 障害者自立支援制度およびその他の制度
20	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
21	講義	1.5	5 介護におけるコミュニケーション技術 介護におけるコミュニケーション
22	講義	1.5	5 介護におけるコミュニケーション技術 介護におけるチームのコミュニケーション
23	講義	1.5	6 老化の理解 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴
24	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
25	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
26	講義	1.5	6 老化の理解 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴
27	講義	1.5	6 老化の理解 高齢者と健康
28	講義	1.5	6 老化の理解 高齢者と健康
29	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 死にゆく人に関するこころとからだのしくみと終末期介護
30	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 死にゆく人に関するこころとからだのしくみと終末期介護
31	講義	1.5	7 認知症の理解 1 認知症を取り巻く環境

32	講義	1.5	7 認知症の理解 3 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活
33	講義	1.5	7 認知症の理解 4 家族への支援
34	講義	1.5	8 障害の理解 1 障害の基礎的理解 3 家族の心理、かかり支援の理解
35	講義	1.5	8 障害の理解 2 障害の医学的側面、生活障害などの基礎知識
36	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 1 介護の基本的な考え方
37	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 2 介護に関するこころのしくみの基礎的理解
38	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 3 介護に関するからだのしくみの基礎的理解
39	講義	1.5	2 介護における尊厳の保持・自立支援 1 人権と尊厳を支える介護
40	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
41	演習	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
42	演習	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 睡眠に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
43	講義・演習	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 2 快適な居住環境整備と介護
44	講義・演習	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
45	講義	1.5	7 認知症の理解 2 医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理
46	講義・演習	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
47	演習	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 2 総合生活支援技術演習
48	講義・演習	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 2 総合生活支援技術演習
49	講義・演習	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 2 総合生活支援技術演習
50	講義・演習	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 2 総合生活支援技術演習
51	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 1 生活と家事
52	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 1 生活と家事
53	演習	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 3 介護に関するからだのしくみの基礎的理解
54	演習	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 4 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
55	講義	1.5	1 介護におけるコミュニケーション技術 2 介護におけるチームのコミュニケーション
56	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 2 介護に関するこころのしくみの基礎的理解
57	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 2 快適な居住環境整備と介護
58	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
59	演習	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 4 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
60	演習	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
61	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護

62	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 睡眠に関するこころとからだのしくみと自立に向けた介護
63	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 死にゆく人に関するこころとからだのしくみと終末期介護
64	講義	1.5	3 介護の基本 2 介護職の職業倫理
65	演習	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
66	演習	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 1 介護の基本的な考え方
67	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
68	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 睡眠に関するこころとからだのしくみと自立に向けた介護
69	演習	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
70	演習	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 4 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
71	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 1 介護過程の基礎的理解
72	講義	1.5	2 介護における尊厳の保持・自立支援 2 自立に向けた介護
73	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 1 介護過程の基礎的理解
74	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 4 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
75	講義	1.5	2 介護における尊厳の保持・自立支援 1 人権と尊厳を支える介護
76	講義	1.5	5 介護におけるコミュニケーション技術 1 介護におけるコミュニケーション
77	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 3 介護に関するからだのしくみの基礎的理解
78	講義	1.5	2 介護における尊厳の保持・自立支援 1 人権と尊厳を支える介護
79	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 4 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
80	講義	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
81	講義・演習	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 1 生活と家事
82	講義・演習	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 1 生活と家事
83	講義・演習	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 2 総合生活支援技術演習
84	講義・演習	1.5	2 こころとからだのしくみと生活支援技術 4 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
85	講義・演習	1	振り返り
86	講義・演習	1	振り返り
87	講義・演習	1	振り返り